

# 総合教養講座開かれる

## OBから将来について学ぶ

総合教養講座に講師として参加された皆さん



▲講座では講師の方に生徒が質問できる場が設けられ、生徒は将来についての質問をした。

12月9日の3・4時限目に第2学年総合教養講座が開催され、講師として来校した本校OB27名が「先に生まれただけのボくらが27通りの人生を母校でぶっちゃけろ」と題したグループワークを行った。生徒は27個のグループに分かれて講師の方々に話を聞き、質疑応答を行った。



速報新聞

# キマグレ

発行所  
彦根東高等学校

## 新聞部

彦根市金亀町4番7号



▲北川さんは生徒にワクワクしているように聞こえるように話したそうだ。

今回の総合教養講座には27名の本校卒業生の方が講師として来校された。生徒は10人前後の班に分かれ、講師の方の経験を聞き、質疑応答を行った。講師の中には海外で活躍されている方や転職を経験された方もおり、講師の方々の多様な経験を聞くことができた。

今回中心となつてこの講座を企画された北川雄士さんは今回の講座を「自分も楽しんで聞いた。聞いていた生徒たちもみんなが生き生きしていたように感じられた」と振り返られた。講師の人数を昨年よりも6人多い27人

集めた理由については「1人でも多くの卒業生に参加してほしいと思ったのでたくさんの方に声をかけた。1チームの人数をできるだけ少なくして、講師と生徒が会話できる機会を増やしたかったというのも理由の一つだ」と話された。生徒の印象を「話を真面目に話を聞いてくれた。何かを持って帰ろうと思って話を聞いてくれていると感じた」と話され「生徒には自分で正解を作れる大人になってほしい。簡単なことではないが、考える癖をつけてほしい」と期待を込められた。最後に生徒に向けて「たった2時間という短い時間のなかで得た、小さいきっかけでも自分の行動に繋げ、可能性を広げてほしい」とメッセージを送られた。

高校時代は新聞部に所属され、部長を務められていたという力久稚佳さんは参加生徒の印象を「まじめで聞く姿勢がしっかりしていた。思っていた以上にリアクションをしてくれた」と述べられ「勉強に対して真摯に向き合っている。そして10年後に講師として戻ってこれるくらい、わくわくした生活を送ってほしい」と期待を寄せられた。